

アンドエスティ HD グループの環境に関する考え方

アンドエスティ HD グループは皆さまと連携し、環境に配慮したビジネスを進めます。日本国内および海外で当社が係わる全事業領域を対象に、当社の環境に関する考え方を以下に示します。

1. 環境へのコミットメント

目標

- サステナブルな原料や加工への切り替え

2030 年までに全商品のうち半分以上をサステナブルな原料・加工へと切り替える

- CO₂排出量の削減と吸収

2050 年カーボンニュートラルの実現

- 衣料品在庫を焼却しない

衣料品在庫の焼却処分ゼロ

私たちの事業に関連する環境目標を設定し、測定可能な指標を設定、進捗を評価します。新たな環境影響を特定した場合、新規の目標および指標を定めます。事業に関わる社内外ステークホルダーの協力のもと、環境保護や持続可能な開発に関連する法律や規則を守りながら目標の達成を目指します。

2. 法令遵守

事業を行う国・地域・公的機関の定める環境関連法令を最新の状態に保ち、遵守します。当社グループのサプライチェーン全体における協力者の法令遵守状況を把握し、適切な措置を講じます。

3. 持続可能な資源利用

包装材などの資材を含めた商品設計における資源・素材の選択において、環境負荷の少ない素材やリサイクル素材を使用することを考慮します。資源効率では、生産工程などにおけるロスを低減し、資源の効率的な利用に努めます。

4. エネルギー効率の向上

事業活動に伴う環境への影響に配慮し、省エネルギー活動や設備の導入を検討することでエネルギー消費量の削減および消費効率を向上します。エネルギー使用状況を定期的に把握し最適なエネルギー効率の計画を策定し実行します。また、商品・サービスでは環境影響を企画設計の重要な要素の一つとして考慮します。脱炭素など環境配慮に資する建物で事業運営することを優先的に選択します。

5. 廃棄物管理

サプライチェーンにおける各工程での過剰包装の廃止、ライフサイクルを考慮した商品・サービス設計、環境や社会に配慮された販売活動などを通じ、ファッションロスを軽減します。事業で発生した廃棄物は、法令に遵守した分別を行い、事業の中でリユース・リサイクルを可能な限り実行できる仕組みを構築します。

6. 汚染防止

生産委託工場を中心に、染色その他の工程、縫製・仕上げ工程など、生産プロセスにおける水や大気の汚染防止と低減を図るとともに、工程で使用される化学物質を厳格に管理することで環境への影響を最小限に留めます。お取引先さまのご協力のもと、商品や生産工程における有害化学物質の漏洩を防止し、お客様と従業員、当社に係る全てのパートナーの安全・安心を守ります。

7. 気候変動対策

私たちは地球温暖化や気候変動に関連した災害発生などの抑制に事業を通じて必要な対策を講じ、より良い環境の維持・向上に貢献します。事業全体での温室効果ガス（二酸化炭素：CO₂など）排出量を削減することを目的に、中長期的な適応シナリオと戦略の策定、それら施策を実行するために必要な経営資源を確保します。適応シナリオに基づく気候移行計画では、国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）のパリ協定において、日本が批准した目標「世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて 2°C より十分低く保ち、1.5°C に抑える努力をすること」と整合した企業グループ目標を策定し、その進捗を管理します。

8. 生物多様性の保護

私たちは、綿花や食品などの作物、農水産物を養う土壌や海洋、森林・湿地・地下水脈など、自然生態系に強く依存した事業を行っています。原料栽培や調達に関する土地や水の利用、生産工程における排水等を通じて生物多様性に影響を与えていることを認識し、これらの影響を可能な限り回避・低減します。また、当社事業が影響を及ぼし得ると特定された領域における生物多様性の保全や再生に直接もしくは間接的に関与します。

9. 水リスクへの対策

当社事業および当社事業に協力いただくパートナーを含むサプライチェーン全体で、水資源保護、取水・排水管理、水の使用量の削減、および効率的な水利用を促します。特に、染色工程など水を大量に消費する生産委託工場や水リスクの高い地域で操業する際には法令・規制を遵守するとともに、水資源の枯渇、洪水、水質汚染などの調査もしくは調査に協力し、当社グループが必要と判断した際には生産委託工場と近隣住民とのコミュニケーションの場を設定することを支援します。

10. サプライチェーン全体での環境教育と環境パフォーマンスの評価

環境意識の向上を図るため、従業員への教育を行い、環境パフォーマンスの指標のひとつとして評価します。ならびに、当社事業に協力いただくパートナーにて環境教育が十分に実施されているかを定期的にモニタリングします。また、当社事業および当社事業に協力いただくパートナーを含むサプライチェーン全体での環境パフォーマンスを評価し、必要と判断した場合には改善を促します。パートナーと連携し環境影響を分析し、定期的にパフォーマンスを評価・認識を共有することで良好な関係を構築します。

11. 継続的改善

従業員教育、CSR モニタリングや生産委託工場への監査などを通じて、環境影響の分析と環境パフォーマンスを評価することを目的に、PDCA サイクルで継続的な改善を実行もしくは支援します。

12. 環境目標の進捗に関する評価とコミュニケーション

社会・経済・事業の変化などに対応する必要がある場合、環境目標を更新し、社内外へ公表します。目標の内容および目標に対する進捗状況を定期的に評価し、必要に応じて対応を協議します。当社事業が関連する環境情報を適宜公表し、環境に関する取り組みをステークホルダーに説明することで事業影響の透明性を確保します。また、統合報告書、有価証券報告書、コーポレートガバナンス報告書、コーポレートサイト、商品・サービス、その他意見交換の場などを通じて、環境を含むサステナビリティ関連情報を社内外へ周知します。さらに、環境に影響を与え得る政策・法律・規制等に対して、直接もしくは間接的に関与する企業活動を行います。